

## 落語について

この人は「落語家」です。「噺家」とも言います。「落語」という面白い話をします。



噺家・三笑亭笑三さん <撮影>黒部 伸

見本



高座に上がって話をする三笑亭笑三さん

落語は、一五〇〇〜一六〇〇年頃に、お坊さんや学者などが、織田信長や豊臣秀吉などの戦国大名に面白い話をしたのが始まりとされています。

江戸時代（一六〇三〜一八六八年）になると、京都、江戸（今の東京）、大阪で、道に立って人々に話をする「噺家」が出てきました。江戸時代の終わり頃、落語を聞くことができる場所「寄席」ができて、たくさんのお客さんが落語を聞きに来るようになりました。今も、大阪と東京に寄席があります。

落語家は着物を着て、扇子と手ぬぐいを持つ「高座（舞台）」に上がります。扇子は、箸や刀や筆になります。手ぬぐいは、本や手紙になります。

落語には、男や女、おじいさん、おばあさんなどいろいろな人が出てきます。落語家は、その人たちの言葉を全部一人で言います。話がとても面白いので、客は大笑いします。

見本

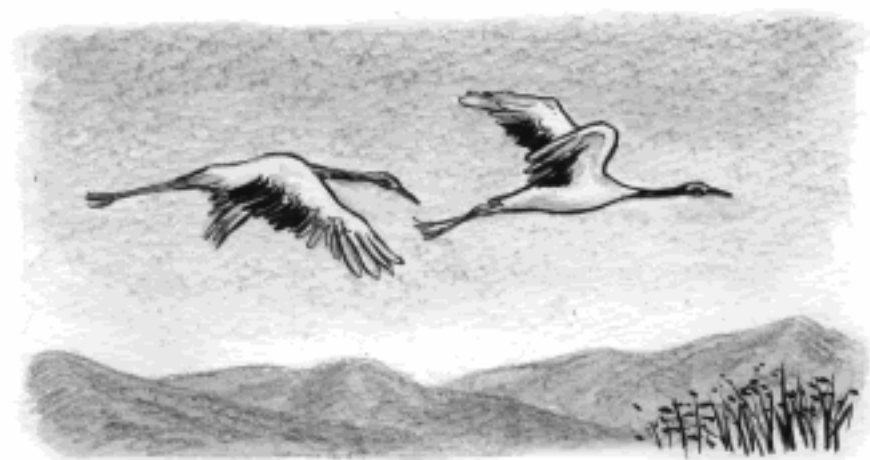
ペーパー



扇子と手ぬぐい



ページ見本



鶴は、白くて美しい鳥です。  
秋になると、寒い国から日本へ飛んできます。  
そして、春になると、また寒い国へ帰っていきます。

ページ見本

昔、あるところに与作という若い男がいました。  
与作は一人でした。両親は何年も前に死んでしまいました。  
兄弟もいません。与作は貧乏でした。毎日、朝  
早くから田んぼに行つて米を作ります。そして、夜遅く  
まで働きます。しかし、生活は少しもよくなりません  
でした。

神話は、どの国にもあります。神話は、神様や国の始まりの話です。

日本の神話は、千三百年ぐらい前にできた「古事記」や「日本書紀」という本に書かれています。

この本では、「古事記」の中にある話をいくつか紹介します。

怒ったり、笑ったり、泣いたりする神様たちの話を楽しんでください。

## 一 日本の国の始まり

世界は初め、天も海も地もはっきりしていませんでした。しかし、あるとき、天と地ができて、たくさんのお神様が生まれました。

ある日、高天原（天の国）に住んでいる神様たちが会議をしました。そして、若い男女のお神様を呼びました。男のお神様は「伊邪那岐」、女のお神様は「伊邪那美」といいます。

神様たちは、二人に、長い長い矛を渡して言いました。  
「二人で一緒に国を作りなさい」

ページ見本

ページ見本